

S-NET NEWSLETTER

2011.10 vol.6

- 大学連携と長野県の教育
- 遠隔授業「英語基礎Ⅰ、Ⅱ（たてなおしの英語）」について
- 前期「遠隔授業」受講状況について
- ピア・メンター育成キャンプ報告
- 「高等教育コンソーシアム信州」の業務に携わって
- 賛助会員募集のお知らせ
- 活動報告
- 編集後記

高等教育コンソーシアム信州事務局
 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学学務課内
 電話：0263-37-2427 FAX：0263-36-3044
 URL：http://www.c-snet.jp/ MAIL：office@c-snet.jp

※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」は Shinshu・Self-Study・Share・Scale・Social を表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

大学連携と長野県の教育



推進チーム会議リーダー
矢部 正之
 (信州大学
 高等教育研究センター教授)

本年4月より、本コンソーシアムの推進チーム会議リーダーを、赤羽貞幸信州大学理事から引き継ぎました信州大学・高等教育研究センターの矢部です。このニュースレターでのご挨拶が、就任から半年経ってしまいましたことを、お詫び申し上げます。本コンソーシアムのさらなる発展と、それによる長野県の高等教育の質・量ともの充実に努力してまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。

本コンソーシアムは、文部科学省の戦略的大学連携支援事業によって、設備等での大きな発展を遂げましたが、昨年度でこの事業が完了し、これからは独自の財政で歩いていくことになりました。この取組をより発展させていくためには、加盟8大学はもちろんのこと、連携の場としている長野県の教育に関心のある多くの方々や組織にとっても、存在価値や利用価値のあるコンソーシアムにしていくことが大事だと思っています。皆様のご協力をお願いいたします。

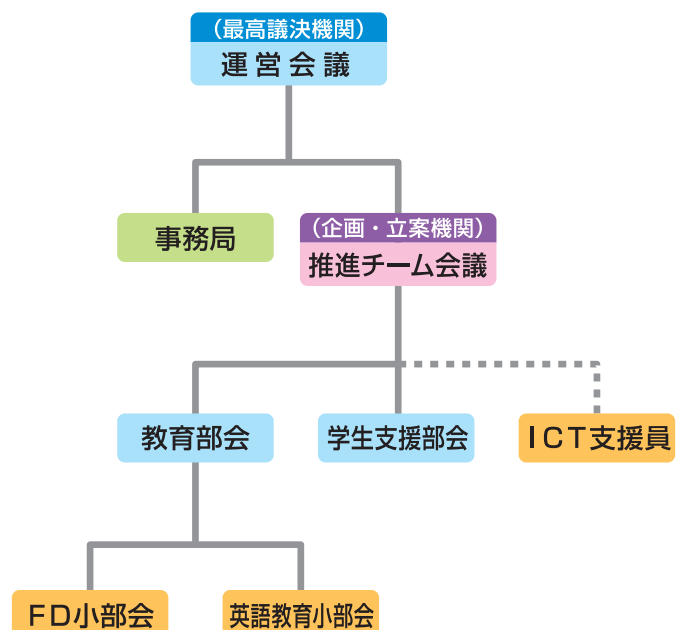
コンソーシアムの会則には、その目的として、

コンソーシアムは、長野県内各高等教育機関が相互に連携・協力し、長野県内の高等教育全体の資質向上を推進することにより、地域の教育・学術研究の充実・発展を図るとともに、地域社会及び産業界との連携推進により、産学官による活力ある人づくり・街づくりへの貢献を目指し、その実現に取り組むことを目的とする。と謳っています。そこでは、単に加盟8大学のメリットだけではなく、「長野県の高等教育全体」、「地域の教育・

学術研究」、「活力ある人づくり・街づくり」という信州：長野県の地域への貢献を目指しています。教育県長野と言われて久しい訳ですが、戦後60年以上に渡る中央集約化で、地方は経済のみならず、教育や文化まで萎縮しかねない状況になってきています。その中で、高等教育の質・量ともの充実は、大学に在籍する学生のみならず、大学を目指そうとする長野県の子供たちの学術への興味を深め「学び」への動機づけを強化し、さらに生涯教育にまで及ぶ広範な県民の学習意欲を高めることにも繋がると考えます。加盟8大学は、その存在により元気な長野県を維持・発展させて行くことで、地域に貢献しております。当然各大学での特色ある取組が大きな寄与をしている訳ですが、このコンソーシアムでの取組が、それをさらに強化できるようになることを願っております。

構成概略図

平成23年4月からの、高等教育コンソーシアム信州の構成は以下のとおりです。



遠隔授業「英語基礎Ⅰ,Ⅱ（たてなおしの英語）」について



推進チーム会議・教育部会員
田村 亮子
(清泉女学院大学人間学部教授)

によって、リアルタイムでは授業参加が難しい学生（及び一般受講者）が、インターネット上で、いつでも、どこでも履修することが可能になり、又、授業には参加したものの、理解が不十分であると感じた学生が、授業録画を繰り返して視

「英語基礎Ⅰ,Ⅱ（たてなおしの英語）」は、中学・高校での英語の基礎学力が不足しているために、英語運用能力を必要とされる場面において支障を来している学生を対象に、英文法理解の再構築を目指したリメディアル科目です。コンソーシアムの遠隔授業として開講され、録画コンテンツ化されること

聴することで、理解を深めることが容易になってきました。

授業では、文章を読んで理解することが苦手な受講生の増加に対応して、講義内容を「アニメーションつきで図式化」したパワーポイントを作成、使用し、さらに、そのパワーポイントに解説音声をつけたものを「見える、聞こえる英文法書（音声付パワーポイント）」として、eChes*に掲載することにより、学生が、必要な部分を必要なだけ繰り返して参照することができるシステムを始めました。

今年度からは、授業の内容理解度を確認するための小テスト、期末試験も、e-Learningシステムとしてコンピュータ上で行えるようになり、授業録画、音声付パワーポイントと並んで、受講生の自主学習を促進する助けとなってきているようです。今後、形態、内容についてさらに研究を進めていこうと考えています。

※イーチェス。高等教育コンソーシアム信州専用の学習管理システム。

前期「遠隔授業」受講状況について

平成23年度の「遠隔授業」は、前期14科目、後期15科目が開講され、前期では県内8大学の学生854名（うち単位互換受講者70名）が受講し、9月16日からは後期遠隔授業が始まりました。

遠隔授業では、高等教育コンソーシアム信州の遠隔講義システムを利用して、自大学にいながら県内の他大学の授業を履修することができます。遠隔授業を受講して修得した単位は、長野県内大学単位互換協定に基づき、所属大学の単位として認定されます。



平成23年度前期遠隔授業の様子

■平成23年度前期 遠隔授業受講状況一覧表

(単位：人)

授 業 科 目 名	担 当 教 員	受講登録者		聴講・市民	合計
		全体	うち単位互換受講者※		
月1 英語基礎Ⅱ（たてなおしの英語）	田村亮子（清泉女学院大学）	74	13	9	83
月3 国際看護学	宮越幸代（長野県看護大学）	24	4	2	26
月4 Rによる統計学入門	鈴木治郎（信州大学）	24	1	3	27
月5 ドイツ語初級（総合）Ⅰ	松岡幸司（信州大学）	29	9	0	29
火3 日本国憲法	眞次宏典（松本大学）	89	1	0	89
火5 キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-	赤羽貞幸・霜鳥光（信州大学）	68	5	0	68
水2 看護基礎理論	竹尾恵子（佐久大学）	94	1	0	94
水5 物理学の世界	矢部正之（信州大学）	44	5	5	49
木1 英語基礎Ⅰ（たてなおしの英語）	田村亮子（清泉女学院大学）	74	13	9	83
木4 検索の科学	鈴木治郎（信州大学）	94	0	3	97
木5 ドイツ語中級（読解）Ⅰ（現代ドイツの言語と日常ゼミ）	松岡幸司（信州大学）	11	1	2	13
金1 生態学A	高橋大輔（長野大学）	92	11	0	92
金4 キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-	赤羽貞幸・霜鳥光（信州大学）	110	4	2	112
金5 日本人のための日本語練習ゼミ	加藤鉦三（信州大学）	27	2	1	28
計		854	70	36	890

※「単位互換受講者」は「受講登録者全体」の内数。

ピア・メンター育成キャンプ報告

毎年恒例の「ピア・メンター育成キャンプ」が開催されました。ピア・メンター育成キャンプは、学生がより積極的に授業に参加できるよう、グループ学習で教員をサポートし、学生の推進役を務める「学生ピア・メンター」を育成することを目的に、1泊2日の日程で開催されます。県内各大学から教員と学生が参加し、さまざまなグループワークや講演を通して、ファシリテーションやコミュニケーションについて考え、実践します。以下では今回参加した教員と学生からの報告を紹介します。

ピア・メンター育成キャンプ参加者▶



■参加した教員から



教育部会英語教育小部会リーダー
せいとう
清藤 多加子
(諏訪東京理科大学
共通教育センター教授)

8月30日(火)と31日(水)、国立信州高遠青少年自然の家(伊那市)で「ピア・メンター育成キャンプ」が開催されました。

県内8大学の学生と教職員が年に1度、合宿で交歓しながら人間関係を学ぶプログラムは平成21年度に始まり今年で3年目。テーマは「Facilitatorになろう!」。ファシリテーターがいると「場」が易しくなり「物事」が進み「当事者」同士満足、そんな触媒的スキルを使える人を大学や社会に増やしたい、これがコンソーシアムの希望です。

今年は日程の調整がつく6つの県内大学が参加、学生23名(男子11名・女子12名)・教職員11名の総勢34名となりました。

全体企画と進行役は清泉女学院大学の田村亮子先生にお願いし、人権と性教育の現場経験が豊富な長野県男女共同参画センターの竹内末希代先生にセッションの1つをご担当頂きました。信州大学の加藤鉦三先生のご挨拶の後、田村先生が巧みにIce-breakingで34人の緊張を緩め、「問題なコミュニケーション」を自作の寸劇で例示、参加者から活発な議論を引き出します。竹内先生が示す若者のリアルは、静かな迫力で参加者を引き込みます。3つの

セッション後(各1~2時間)、大学の混成チームごとに自らの気づきを反映させた「問題発見と問題解決のドラマ」制作、翌日の上演会でキャンプは成功裡に終了。

アンケート「このキャンプを他の学生にも勧めたいと思いますか」に「はい」との回答は、学生85%・教職員100%。学生が協同しながらぐんぐん成長する姿は感動的でした。学生から印象に残る言葉がありました。「empowerという語は知っていた。でもエンパワーの真の意味が、今回はじめて分かりました」。誰でも自らの内側にすごい潜在力がある。その力が引き出されていく現場を目撃した2日間でした。



ワークショップの様子

■参加した学生から



佐久大学看護学部看護学科2年
おおば たただか
大峽 惟高

国立信州高遠青少年自然の家で開催されたピア・メンター育成キャンプに2年連続で参加させていただきました。今回はコミュニケーションをテーマに、よりよい対人関係を築いていくには何をすればよいかを、講義とグループワークで考えました。コミュニケーションは普段何気なく行なっていることですが、改めて分析してみると、人それぞれに特有の癖があり、改善点なども明確になることが非常に興味深かったです。コミュニケーションの方向性を知ることは、自分や他者を客観的に分析する際に大切であると感じました。

このキャンプは、他大学の学生との交流の機会としても有意義な時間となりました。私が他大学の学生と交流を持つ機会は、同じ高校のOB同士の集まりくらいしかありません。全く面識のない人間が集まって、お互いの距離感をはかりながら一緒に作業をすることは、とても新鮮で学ぶことも多かったです。そして、大学に入学して一年半が経ち、悪い意味でも慣れてくる時期でしたが、他の分野で頑張っている同世代に会い交流することにより、自己を反省し、さらに奮起することができました。

時間としてはわずかでしたが、普段関わることのない他大学の先生方や学生と意見交換ができたことは、今後の私の大学生活にとって大きな刺激になりました。このような機会を企画して下さった主催者の方々並びに、引率していただいた先生方に感謝を申し上げます。

「高等教育コンソーシアム信州」の業務に携わって



信州大学職員 龍野 範生

高等教育コンソーシアム信州は、4年制大学の代表者で構成する長野県大学連絡協議会から発展的に平成20年度に発足しました。私は、長野県大学連絡協議会の下、平成17年度より実施した長野県内大学単位互換制度に関わっていたことから、コンソーシアム事務局員として関与することとなりました。当時は、地域が分散し、公共交通機関が乏しい「長野県」で単位互換制度を利用する学生などはいないだろうと思っていましたが、各学期、少数ながら同制度を利用して受講する学生がいたことは、驚きであるとともに、地理的な制約を解消し、学生が利用しやすい制度を提供する必要があると感じました。

このような状況の中、平成20年度の文部科学省公募事業「大学教育の充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択されたことにより、これまでの課題への対応、高等教育コンソーシアム信州としての組織化、より発展的な大学間の連携を進めることができました。

上述の「戦略的大学連携支援プログラム」によって各大学に遠

隔講義システムと遠隔会議システムを設置し、大学間の遠隔講義、コンソーシアム諸会議に供することを可能にしました。特に、大学間による遠隔講義の実施は、大学間の学年暦・時間割の相違、システムトラブル時の対応、受講に関する諸連絡等、解決しなければならない問題が山積していましたが、一つ一つ教育部会を中心に検討がされ、平成22年度には23科目の授業が遠隔授業として提供され、単位互換受講者がすべての受講者の約1割にも達しました。

さらに、遠隔システムは、遠隔授業のみならず、サロン(K³茶論)、フォーラム等でも利用され、大学間の連携・交流の機会を提供する仕組みともなっています。

本コンソーシアムは地理的な制約の下での事業展開を余儀なくされ、大学コンソーシアム京都や大学コンソーシアム石川など地域性を生かした取組を行うことは難しい状況ではありますが、発展途上である本コンソーシアムは、遠隔システムを活用し、大学間で知恵を出し合いながら、学生・教職員・地域の皆様に魅力ある取り組みを提供できるものと思います。

私は、学内異動の関係から本年7月をもってコンソーシアム事務局より離れることとなりましたが、大学連携とコンソーシアム発足からの業務に携われたことは、私にとって貴重な経験になりました。最後となりますが、発足段階からご協力いただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。

賛助会員募集のお知らせ

県内高等教育と地域の発展を目指す高等教育コンソーシアム信州を、サポートして下さる会員を募集しています。詳しくは高等教育コンソーシアム信州事務局までお問い合わせください。

■年会費 特別会員（長野県内地方公共団体）、賛助会員（団体・個人）とも、1口1万円、1口以上

■会員特典

- ①高等教育コンソーシアム信州公式Webサイトに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（リンクを貼ることも可能です）。
- ②高等教育コンソーシアム信州のパンフレットに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（ただしパンフレットは年1回発行のため、年度途中で会員になった際は掲載できないことがあります）。
- ③高等教育コンソーシアム信州が主催するフォーラムや講演会の案内をお送りいたします。
- ④「S-NET NEWSLETTER」など高等教育コンソーシアム信州の刊行物をお送りいたします。
- ⑤会員団体の企画を高等教育コンソーシアム信州が後援いたします（書類提出等、手続きがあります）。

活動報告

高等教育コンソーシアム信州の最近の主な活動は、次の通りです。

- 8月9日（火） 第24回K³茶論「大学の常識?～教職員の常識=学生の常識?～」開催
- 9月1日（木） 長野県看護大学、信州大学「メンタルヘルス講演会」開催
- 9月10日（土）、11日（日） 「第8回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」参加、ポスター発表
- 9月14日（水） 第5回FDフォーラム「2011年度前期遠隔授業の振り返りと後期に向けた準備」開催
- 10月4日（火） 第25回K³茶論「新学期をスムーズにスタートさせよう!」開催

10月上旬発行の雑誌『KURA-信州の教育-』（株まちなみカントリープレス）に高等教育コンソーシアム信州が掲載されています。ぜひご覧ください。

編集後記

気づけば今年もあと3ヶ月、この秋でコンソーシアムが発足して丸3年。時が経つのは本当に早いですね、まさかニューズレターの発行が秋になろうとは…。さて、後期遠隔授業の履修学生は何人になるでしょうか。楽しみです! 4年目を迎えるコンソーシアムを、引き続きよろしくお願いいたします!